

75 With(or Under)からAfterへ?!「まちづくり」へ言いたかったことは?!

堂本 彰夫

(1) 「まちづくり」の方に(は?)、凄い人達がいる?!凄い組織・ネットワークがある?!

先日、もうすっかり忘れていた? 「With コロナ時代の新しいまちづくりを考える地域円卓会議」の動画(板書記録を含む、YouTube用)と報告書が、事務局?の、那覇市在NPO法人「まちなか研究所わくわく」からメール送信されてきた。この「地域円卓会議」は、任意団体? 「なは市民協議会」の主催、公益財団法人「みらいファンド沖縄」/NPO法人「まちなか研究所わくわく」の協力の下、昨年10月13日と、同27日に行われたものであるが、私は、2日目の「サブセッション・セッション2」の「論点整理者(登壇者?)」の一人として参加していた(ボランティアで!ただし、残念ながら、オンライン参加という形であった!)

いずれにしても、随分と時間が経っているので、私自身は、その内容については、ほとんど忘却の彼方ではあったわけであるが、早速、その報告書及び動画を見せてもらった。改めて、当日のことが、かなり鮮明に蘇ってきたと同時に、その円卓会議自体が、どのような形で進められていたのか、視覚的にも分かり、まさに「コロナ禍」にあって、このような会議(フォーラム)が実現していたことに対して、驚きとともに(スタッフの技術力、そして、MC?の実力も!)、時代の趨勢を、否が応でも感じさせられた(若い人には、当たり前かもしれないが?)!地域の「困りごと」について、市民同士が話し合う、この「沖縄式地域円卓会議」(そう自称されている!)であるが、「まちづくり」の方に(は?)、凄い人達がいる?!凄い組織・ネットワークがあるものである?!

ちなみに、ここでは、多少?の余談となるが、本会場における、自分自身の、ズームでの参加光景(動画)を見たのは初めてであり、その意味でも、非常に貴重で、新鮮な体験でもあった(音響的な部分で、多少不具合もあったが?)!かなり手厳しい評価(アンケート結果)をしている人もいたが(一人だけ?)、私自身の喋りや図の説明も、予想外にうまくいっていると、自己評価もした次第である(いつもより上手くできた?珍しい?)。

さて、それはともかく、那覇市においては、これをきっかけとして、その後何かの動きが出てきたのであろうか?直接の依頼者(仲介者)であったHさんから、特に何も情報提供がないので、何とも言えないが(本当は待っているのであるが?)、同市の「CS」や「地域学校協働本部事業」への動き等に、何らかの影響(良い動き)がないものかどうか?

と言うのも、実は本音を言うと、「円卓会議」自体の?関係者には、大変申し訳ないが?)、後に述べるように、私が、この依頼を引き受けたのは、一重に、そうした動きへの伏線(刺激?)になればという思いがあったので、そこが大いに気になると言えば、気になるということである!要は、「まちづくり」と「ひとづくり」は循環している(同時進行or表裏一体とも言える?)ので、「まちづくり」には、一方の「ひとづくり」への目配りが必要で、今般のコロナ禍では、そのことが直接には意識されないかもしれないが(目前の課題に対応しなければいけないので!)、言うなれば、「With(or Under)からAfter(コロナ)へ」ということで、むしろ「After」を見通した動きやしくみを創る方向性が重要だというような、言わば「裏メッセージ」を発したかったということである!

ただし、「コロナ禍で芽生えた市民活動を新しいまちづくりのスタイルにするには」とのテーマで、「なは市民活動支援センター」主催の、行政が論点提供となる円卓会議に発展したとある。今後、その成果が、「NPO・市民活動団体交流会」等において、どのように現れてくるのかということであるらしいが、もちろん、それも、大いに期待されることではあるが、一方の教育委員会関係は、どうなっているのでしょうか?

(2) 私の思い(秘かなねらい?)は、何であったのか?

ということで、それに関わる私の思い(秘かなねらい?)は、改めて何であったのか?ということであるが、何故か、ここで、過日終了した「教育協働セミナー」の中での、佐賀県のSさんからのチャットを思い出している。「佐賀でも市長・町長・会社社長を交えてのフォーラムをしたことは在りましたが、単年度ではダメですね。…最低でも3年、…毎年のようにしないと、首長への意識付けは難しいですね」、「個人的には、社会教育主事の重要性、主事講習はまず社会教育の基本を学ぶだけというのは分かりますが、以前教育長に反論されて再反論できなかった…『社会教育主事だから素晴らしい業務ができるのか?有能な・意欲ある職員だから素晴らしい業務ができるのか?お前たちが言う根拠は何だ?』説得できませんでした。」とあった!

おそらく、このやり取りは、いわゆる「答え(結果?)は最初にありき!」という意味合いが強く、再反論が出来なかったのは、それが、別次元の話であったからではないか?!「理想だけでは話にならない!」ということであるが、だから、この「円卓会議」においても、鋭い?参加者の中には、私の理想?は、かなり忌々しくも感じられるものであったのかもしれない(つまり、目下の課題や問題点に答えていない?)!それはそれで、了解はされるのであるが、私は、最新の?話題提供や論点整理の専門家にはなれないことは、大いに自覚していたので、その点では、大変申し訳なく思っているわけである!とは言え、とにかく、いつかは「After」が来るのであり、ならば、それに向けての提案(言)の方が、私には、より相応しいと思っただけの依頼受諾だったという

ことでもある！誰かの言ではないが、コロナ禍は、ある種の「目覚まし時計」なのでもある？！

そこで、改めて、言いたいことは何か？それは、ここでの文脈、すなわち「ひとづくり（教育）」の観点からすれば、「人（個人）」よりも「しくみづくり（全体）」の方が、より重要なのではないかということである！何故なら、人は代わっても、しくみはある！そのことの意義、メリットこそが大切であるということである！別言すれば、「人」は「しくみ」の中で活かされる、あるいは「しくみ」がなければ、その活躍の場さえなくなるということである（ただし、「しくみ」は、「人」がつくるものでもあるが！）！

要するに、今盛んに取り込まれてきている「市民協働」という考え方やしくみづくりは、「まちづくり（協働）」と「ひとづくり（協働）」の両輪によってなされていくもの、そのように捉えられるのであるが、そこに、「学校教育（行政）」との関わりが必要なのではないか?!さらには、そこに介在するのが、社会教育（行政）であり（「まちづくり」と「ひとづくり」の双方に関わる!）、今、「社会に開かれた教育課程」とか、「地域学校協働活動」の関わりで、再びその役割がクローズアップされてきているのではないか?!したがって、そこに、新たな「しくみづくり」が必要なのではないかということである！

(3) 改めて、今、「ひとづくり（教育）」に求められるものは何か？

しかるに、改めて、今回思った（感じた）ことは、一方のまちづくり関係者（その最たるものが首長である!）には、社会教育（行政）の重要性は分かっているものの、それが、学校教育を含めた「教育全体」に関わるものであるというようには思っていないということである?!そのことが、如実に感じられたのは、例の有能なMCの人が、私の提案（言?）を受けて、社会教育（行政）への目配りの大切さを再確認されたようではあるが、すぐに、今日の話は、「まちづくり」であるので、「ひとづくり」、とりわけ「学校教育」の関わりについては、ここでは採り上げないというような言質であった（それを、訂正?しなかった私のせいでもあるが?）！

まさに、ここが問題なのである！つまり、「まちづくり」と「ひとづくり」は循環（往還）すると理解はしていても、論議となると、それらが、別々の話（論議の枠組み）になるということである?!別言すると、「社会教育（行政）」が「まちづくり」と関係して論議されなければいけないと思っはいるが、「学校教育（行政）」までを含めた、全体的な「ひとづくり（教育）」論議と絡ませた形にはならないということである（ただし、今までは、ほとんどの人が、それを是としていた?だから、なかなか変わらなかった?折角、「社会に開かれた教育課程」とか、「地域学校協働活動」とかというような概念・方向性が、一方で、「学校教育」の方から出て来ているにも拘わらずである!）?!

では、今、「ひとづくり（教育）」に求められるものは何か？それは、理念（想?）的には、「生涯学習社会の実現」を目指すしくみづくりであるが、一方では、より説得性のある「教育再生?」のためのしくみづくりであるということである！それは、そこに、まちづくりのプロセスや成果を組み入れるということであるが、実は、それが、今般の「社会に開かれた教育課程」にも通じるものであるということである?!と言うのも、現在、「不登校」や「いじめ」（それに絡まる不幸な事件も含めて）、さらには「貧困」や「経済格差」等の「構造的差別?」といった根本問題も潜在していると言えるが（そして、現下の「コロナ禍対応」といった諸課題も!）、それらが、「学校教育」の上に重くのしかかっている！しかも、そのような状況の中で、「学ぶ意味」とか、「何を、どのように学ばよいか?」といった、根源的な学びへの問いへの対処も求められている！

考えてみると、それらが、独り学校に委ねられるべきものではないことは明白ではないか？学校単体では、直接には対処することはできないし（多忙さもあって?）、そこに「コーディネート/マッチング機能」がないと、うまく回らない！その中で、「何故学ぶのか?」「生きがい、やりがいとは?」、あるいは「人（大人）は、どのように生きているのか、働いているのか?」、そうしたことが、「総合的な学習の時間」、「インターンシップ学習（職場体験）」、さらには「探求」とか「公共」といった新設の科目に求められ、「自分自身の生き方ややってみることが生まれてくる?」というような学習の必要性が、学校教育に投げ入れられているのでもある！

したがって、そのことをより効果的に行うためには、そうした「教育プログラム」に、社会教育（行政）を介在させた「まちづくり事業・活動」のプロセスや成果を組み込んでいくということが、大いに求められるのである！言うなれば、「学校教育」と「社会教育」がスクラムを組んだ形で（その意味でも、教育は一つなのである!）、まちづくり事業や活動につながっているということが重要なのである（それらを示したものが、実は、「ひとづくり」と「まちづくり」の相関図、愛称?「三層構造図」と「ひとづくりとまちづくりの曼荼羅図」）なのである！

こうして、「ひとづくり」と「まちづくり」の循環という構図の中での「社会教育（行政）」の存在意義（必要性）が、改めてクローズアップされてくるのであるが、まちづくり（事業/活動）のプロセスや成果を、学校教育に、いかに組み込んでいけばよいか?「教育協働」というものは、当然ながら（目下のところ?）、そうしたしくみや取り組みを目指すことになるのである！繰り返すように、今、国の「総合教育政策」が動き始めているが、その具体的な形である「CS」や「地域学校協働活動」の中に、社会教育（行政）が介在した活動・活躍の場・しくみづくりが連動させられていることが重要なのであり、それは、ユネスコが提唱している「SDGs」の実現のための、「FE」（学校教育）とNFE（社会教育）の協働（合力）と軌を一にするものなのでもある?!